

第28回： バイオアッセイと環境化学物質の安全性評価

開催日： 1996年2月6日～7日 / 会場： 「きゅりあん」東京都

開催趣旨： 産業の発達に伴い我々の周りには多くの化学物質が存在するようになり、快適に生活できるようになった反面、その化学物質による環境汚染が最近特に深刻な社会問題となってきました。水環境においても微量化学物質等による汚染が問題となっており、特に化学物質の複合的な汚染に対する安全性、毒性をどのように評価し、規制していくべきかは今後の重要な課題となってきます。

今回のセミナーは、化学物質による環境汚染の現状を的確に把握し、様々な生物学的手法により複合汚染に対する包括的な毒性評価を含め、生体および生態に対する影響を理解することを目的に企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 水環境におけるバイオアッセイ利用の動向（内海英雄／九州大学薬学部）
- 農薬汚染による健康影響リスク（相沢貴子／国立公衆衛生院）
- 環境水中の異変原物質の現状と評価（中室克彦／摂南大学薬学部）
- 動物細胞を用いる環境化学物質の毒性評価（安藤正典／国立衛生試験所）
- ダイオキシン関連物質の生体影響評価（宮田秀明／摂南大学薬学部）
- 生態影響評価のためのバイオアッセイ（青山勲／岡山大学資源生物科学研究所）
- マイクロコズムを利用する生態系影響評価試験（稲森修平／国立環境研究所・高松良江／筑波大学農学研究科）
- ECD生態影響試験を中心とした環境化学物質の毒性評価（吉岡義正／大分大学教育学部）
- バイオモニタリングによる化学物質の河川生態系への影響評価（畠山成久／国立環境研究所）